

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○事象や行為を表す語彙について理解している生徒が多い。 ●文脈に即して漢字を正しく使うことができない生徒が多い。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができない生徒が多い。 ●自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができない生徒が多い。	・対義語や類義語、多義語などを積極的に授業で取り上げ、語彙力を磨かせる。 ・「なぜ・どうして」といった問いを発することで根拠を明確にさせる。 ・安心して自分の表現が発表できる雰囲気を作る。
数学	○図形については、定着している事柄があるように思える。 ●グラフの読み取りが困難な生徒が多い。 ●素数の意味を理解していない生徒が多数いる。 ●計算全般に弱い生徒が多い。 ●資料の分析ができない生徒が多数いる。 ●割合の計算ができない生徒が多数いる。	・関数 $y=ax^2$ の単元で比例反比例の復習しながらグラフの読み取りの学習を多くする。 ・毎時間小テストを実施し、その時間の中で直しをさせる。 ・各単元で割合の計算など算数の復習をしながら進める。 ・資料の分析については、受験指導の中で問題解決をさせるようにする。
理科	○基礎的な問題や一問一答の問題について回答率が高い。 ○実験結果から言えることを整理する力があるように思える。 ●考察などの表現において弱い生徒が多い ●ある事象からの関連性を結び付けることが難しい生徒が多い ●地学分野(1年大地)の正答率が低い。	・実験結果の分析はできる生徒が多いので、自分が立てた仮説を検証し、自分の考えが妥当だったか考える機会を作っていく。 ・学年や単元の横断的な授業を意識して作成する。既習事項の取り上げ方に工夫をする。 ・3年生の教科書を終わらせてから、一年の復習をします。

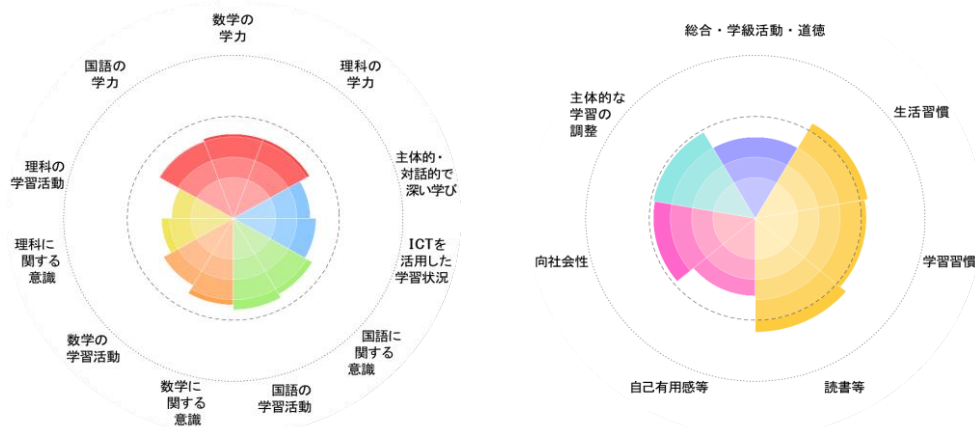
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○人の役に立つ人間になりたいという回答の肯定的回答割合が100%だった。 ○家庭学習1時間以上の割合が島根県、全国と比べても高い。また、読書が好きと回答した生徒の割合も高かった。 ●自己肯定感とかかわりの深い質問への回答が、島根県や全国と比べても低い。 ●授業でのICT活用、自分で考える活動、話し合い活動が島根県、全国と比べて少ない傾向がある。	・一人一人に目を向けた声がけを教職員全体に広げていく。 ・外部と連携した人権教育に力を入れ、他者や自分を大切にできるようにする。 ・chromebook導入に合わせて、教職員全体でICTを活用した授業のアイデアを共有し、ICTを活用して生徒同士が意見を交流させられる授業を増やす。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・家庭での自学の取組を改善し、自分の課題や苦手と向き合える自主学習の時間になるようにする。 ・経験年数研を活用し、学校全体での授業力向上を目指す。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

47

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

